

無法松の一生

観賞日 2020・1・13

【概要】

制作 1958年 日 上映時間 104分
原作 岩下俊作
脚本 伊丹万作、稲垣浩
監督 稲垣浩
音楽 團伊玖磨
撮影 山田一夫
出演 三船敏郎（富島松五郎）、高峰秀子（吉岡良子）
芥川比呂志（吉岡小太郎）、笠智衆（結城重蔵）



【あらすじ】

明治30年。北九州小倉の車引き、富島松五郎は無法松と呼ばれる小倉では有名な暴れ者。松五郎は木から落ちて泣いていた少年敏雄を助ける。それが縁で吉岡家に入りする松五郎。吉岡家の主人小太郎は陸軍のエリート軍人で妻の良子と長男敏雄の三人暮らし。しかし、小太郎はじきに風邪をこじらせ急逝する。夫を亡くした良子は松五郎に敏雄を鍛えてほしいと頼む。良子を秘かに思慕する松五郎は快諾。松五郎にとって良子や敏雄と関わることが生きがいになる。松五郎は敏雄を鍛え敏雄は見違えるように元気になる。

大正3年。高校生となり熊本に旅立つ敏雄を見送る良子と松五郎。吉岡家との関係が薄れ淋しさを酒で紛らわす松五郎。夏休みに敏雄が帰省する。小倉祇園祭の日。松五郎は渾身の力で太鼓をたたく。祇園太鼓の暴れ打ち。翌日良子のもとを訪ねた松五郎は・・・

明治から大正にかけて、小倉の名物男といわれた快男児富島松五郎の半生

【解説】

■ポイント

●無法松の一生の映画化

- ・「無法松の一生」は4回映画化されている。1回目は1943年。監督・稲垣浩、主演・坂東妻三郎で大評判をとったが、稲垣は戦時中の検閲で満足のいく作品が作れなかったとして、1958年にリメイク版を製作、それが本作である。
- ・その後、監督・村山新治、主演・三國連太郎で3回目(1963年版)、監督・三隈研次、主演・勝新太郎で4回目(1965年版)が制作された。

●第19回ヴェネチア映画祭金獅子賞受賞

ライバルは本命視されていた「檜山節考」(木下恵介)と「巨人と玩具」(増村保造)であったが本作が受賞

●原作小説「富島松五郎伝」

作者は岩下俊作(1906年～1980年)、作品は1939年の直木賞候補作

■見どころ

●無法松＝坂妻という定説に挑む三船敏郎

松五郎という個性的で魅力ある人物を演じ切る。

●落涙必死のラストシーン